

## 「食料の安全保障と持続的な発展における女性の役割： 農村と都市の協力」

社団法人 農山漁村女性・生活活動支援協会（WE L I ）国際課課長 富澤ひとみ

日時：3月1日（木）12:30 - 14:00

場所：The Drew Room, Ground Floor room at the CCUN

後援：農山漁村女性ネットワーク、協力：日本パシイワ、N Y アグリウーマン

主催：社団法人 農山漁村女性・生活活動支援協会（WE L I ）

### 司会

鹿野 和子（日本パシイワ会長）

### 1. 開会挨拶

坂東 眞理子（WE L I 会長）

### 2. パネルディスカッション

#### ① 萩原 知美

ファーム・インさぎ山 代表、農山漁村女性ネットワーク 初代リーダー）

「ファームイン・さぎ山 15年間の取り組み」

#### ② Ms. Sheila Marshman （米国）

The Chair of the Department of Agricultural Business, Agricultural Science and Dairy Management at Morrisville State College、N Y アグリウーマン

「フードシステムを通じた女性のエンパワーメント」

#### ③ Ms. Olayinka Adeleke （ナイジェリア）

Executive Secretary, Center for Women Reproductive and Child Right（CEWRAC）

「都市と農村女性の協力による餓餓撲滅を目指して」

#### ④ 芹沢 千恵子

日本パシイワ 事業部長

「日本のアンテナショップ」

### 3. 質疑応答





# 農村女性の役割探る

## 日本の団体 米国で討論会

【ニューヨーク小野かおり】世界で食料価格が上がり、環境破壊が問題になる中、女性にできることは何か……。日本の農山漁村女性・生活活動支援協会が1日、ニューヨークで「食料の安全保障と持続的な発展における女性の役割」農村と都市の協力」をテーマにパネルディスカッションを開いた。日本や米国など各国の女性が事例報告

し、世界から集まった聴衆が耳を傾けた。パネルディスカッションでは、さいたま市の「ファーム・インさき山」代表の萩原知美さんとニューヨーク州立大学モリスビル校のシェイラ・マリーシュマンさん、ナイジェリアのアラインカ・アデレケさん、日本パシイワ（日本汎太平洋東南アジア婦人協会）の芹沢千恵子さんが報告した。



女性と農業・食料について報告した右から萩原、マリーシュマン、アデレケ、芹沢の各氏（ニューヨークで）

押しし、現在、米国の農場経営者の約3割が女性だという。

アデレケさんは「途上国の農業は、生きるための手段」と強調した。先進国に比べ、アフリカの女性は情報収集や土地の取得、融資などが難しく、自分の食料を生産する農地の確保すらままならない。厳しい環境の

てれ  
ほしい  
ひな祭り  
ピッチの上で盛り上がってます

（静岡・ワンワン）

中、アデレケさんは「世界の気候変動や食料高騰は直接、私たちの食料安全問題につながる」と話した。

萩原さんはファーム・インさき山の活動を報告。自宅の畑や雑木林を開放した農家体験学習や、女性ネットワークを生かした農家レストランを紹介した。芹沢さんは、各地の特産品を販売するアンテナショップを説明し、注目を集めた。

同イベントは第56回国連婦人の地位委員会の関連行事。自然や経済、文化的な違いはあっても、農業分野で活躍する女性の報告に会場からは多くの共感の声が上がった。